

## 9. 日本の陽明学・儒学

○陽明学…開祖は王陽明。儒教の一派で、明代に大成

[陽明学・再確認] ・知行合一／・心即理／・良知

□中江藤樹[1608-48]日本陽明学の祖。朱子学から出発するも、これを批判し陽明学を説いた  
[著書]『翁問答』門人との問答形式で自らの思想を論述。[私塾]藤樹書院

<教義>

・孝…「まごころ」のこと。親子だけではなくあらゆる人間関係を成立させる人倫の根本原理。万物の存在根拠をなす。愛敬(上を敬い下を蔑まないこと)の心の本質とする。

・良知…すべての人にある、善悪を判断する能力。

・知行合一…行う事は知ることの完成であるという考え。

・時・処・位…孝の心の実践的なあり方。時(時期)・処(場所)・位(地位)の三つの条件の事。朱子学では、常に規範を遵守することが求められたが、陽明学では、状況への柔軟な対応を重視した。

□熊沢蕃山[1619-91]藤樹の弟子。礼法は時・処・位の状況によって変化し、普遍的性格を持つものではないとした。また、単に聖人の事績を学ぶのではなく、聖人の心を学ぶべきだと説いた。岡山藩主

池田光政に仕え、治山治水に功をあげるも、著書『大学或問』で幕政を批判し、晩年は隠棲した。

□大塩平八郎[1792-1837]もと大坂町奉行所の与力であったが天保の飢饉における民衆の貧窮を歎じ、兵をあげたが、失敗し自害した。

○古学…朱子学や陽明学などの、後世の儒学者による解釈を排し、原典を直接読むことによって儒学の本来の精神を明らかにしようとする考え。

□山鹿素行[1622-85]朱子学の観念性を批判。泰平の世に、民衆を導き政治に参画する指導者としての武士の性格を求め、士道を説いた。また、自らの学問を「聖学」とした。

[著書]『聖教要録』初めての古学の書。政治に参画する者としての武士の道徳としての士道を説く。

・士道…江戸期に儒教倫理を基に説かれた武士道。武士は天下の政治を担当する自覚をもち、農工商の三民を率いて人道を実現する長となるのが武士の職分だとした。指導者としての倫理的自覚と高貴な人格の涵養が士道の根本

(⇒山本常朝[1659-1719]鍋島藩士。著書『葉隠』の中で、主君への絶対服従と死の覚悟を説いた。)

「武士道というは、死ぬことと見つけたり」

○古義学…『論語』『孟子』にかえって、この二書を熟読し、古義(もともとの意味)を明らかにする考え。

□伊藤仁斎[1627-1705]古義学を提唱し、孔孟の精神を明らかにしようとした。長男の伊藤東涯が考えを受け継ぎ、古義学派(堀川学派)とよばれた。

[著書]『童子問』『語孟字義』[私塾]古義堂

・仁・愛…仁斎が孔子の教えの根本としてとらえたもの。人間相互の愛は仁愛であり、根本に誠が必要だとした。

・誠…自他に対していつわりを持たない純粋な心情。仁斎は、仁愛の実現には、誠という心の在り方が重要だとした。具体的には、誠は忠信(自他を欺かないこと)の実践に表れる。

○古文辞学…実証的な文献学。中国の古典や聖賢の文章・言葉に直接触れる考え。主に五経を重視。

□荻生徂徠[1666-1728]徳川將軍の侍医の家柄に生まれる。柳沢吉保に重用され、引退後は私塾護園で儒学の研究にいそしむ。[著書]『弁道』古文辞学の方法を説く『弁名』

・先王の道…道は自然に備わっているものではなく、中国古代の王が天下を安定させるために制作した安天下の道であるとした。具体的には、礼楽刑政の制度や習慣を指す。

・経世済民…世を治め、他人を救う事。政治・経済の両輪。

□太宰春台[1680-1747]はじめ朱子学をならうが、32歳で徂徠に入門。主著『經濟録』で経世済民を強く主張。富国強兵・藩の専売制などを説く。

□服部南郭[1683-1759]もとは柳沢吉保に歌人として仕える。その後徂徠に入門し、文学としての漢詩文を独立させる。

### センター問題に挑戦! No.9 (2001年追試) [易]

「孝」は人間関係を示す徳目にとどまらずに、天地万物の根源的「道」を示すものと唱えた近世の思想家は誰か。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

① 熊沢蕃山

② 荻生徂徠

③ 中江藤樹

④ 林羅山

[No.8の答] ② ①×上下定分の理⇒朱子学 ③×商人の職分⇒石田梅岩 ④×一君万民⇒吉田松陰